

寛政池の築造～瀬戸川と庄内掘割～

寛政池は、瀬戸川上流の神戸市西区岩岡町にあります。1800(寛政 12)年に完成したので「寛政池」と名付けられました。

寛政池は明石藩西浦辺組西島村、中尾村、森村の3か村の灌漑用水確保のために築かれました。川幅28間、岸の高さ10尺の瀬戸川を堰き止め、基礎20間、高さ2間半、長さ32間の堤防で横切り、川床2間を掘り下げ、上流に高さ2間の堤防100間を築き、底を1間半掘り下げ、149,904 m³を貯水する計画でした。工事費は銀21貫目で、尾張(愛知)の専門業者(黒鋏)が請け負いました。工事費と人足の2割5分は地元負担でした。

当時この3か村と長坂寺村は長谷池、皿池、大池の3池に灌漑用水を頼っていましたが、これらの池の水は、林崎掘割とその延長の大久保掘割、瀬戸川からの庄内掘割の両掘割からの水でした。しかし、いずれも掘割の最末端にあたり、常に水不足に悩まされていました。明石藩郡役所から3か村はため池を築く計画書の提出を命じられ、これが認められ、延べ工事人足28,488人、7か月の工事により、完成しました(『明石市史 上巻』)。

それ以後、寛政池の水は瀬戸川から庄内掘割を通じて、途中山川下池、平池、半蔵池、尻の池などに補水し、長谷池、大池、皿池に運ばれ、3か村の重要な用水になりました。1893(明治26)年、明石でひどい旱魃のため、多くの村が水不足で苦しみました。西島村、中尾村、森村の3か村は寛政池のおかげで水不足で悩まされることはありませんでした。そこで、寛政池の恩恵に対し改めて感謝するとともに先人の功績を讃えるため、1894(明治27)年に「寛政池紀功碑」が大久保町西島(大池の敷地)に建てられました。『明石のため池』(平成20年3月)によると明石市関連のため池111の中で貯水量では寛政池は第5位(118,000 m³)です。

○寛政池と庄内掘割

寛政池が上流にできることで、瀬戸川に井堰を築き取水していた村々は、旱魃の際に用水不足にさらに苦しむことを心配していました。庄内掘割の取水口は、国道2号線から少し南、魚住浄水場付近にあります。水路は住宅地の中や西部文化会館付近を通り、大型スーパーの北を東に約100mで、長谷池に入ります。長谷池と大池は繋がっており、水を融通し合っています。



【参考文献】『城と明石の400年』(明石市立文化博物館 令和元年9月)図版参照
『あかし文化遺産』(明石市地域文化財普及・活用事業実行委員会・明石市 平成27年3月)図版参照

